地殻変動観測実験装置設置

野島崎沖の相模トラフに

来年1月まで　プレート潜り込み測定

海洋情報部

海上保安庁海洋情報部は地震を起こす海底の地殻変動を観測するため、五月下旬、房総半島沖のプレート境界に地殻変動観測実験装置を設置、来年一月まで海底の動きをキャッチする。地震予知に極めて重要とされながら海底での地殻変動観測は困難だっただけに、この実験が成功すれば、プレート運動の研究が進むとともに、日本周辺海域での地殻変動が監視でき、地震予知研究に役立つと期待される。

地球は何枚かのプレート（岩板）に覆われ、プレート境界付近の衝突やこすれにより地震がおきる。地殻運動はプレート境界付近では縮み、中央付近では広がっているとされる。南米チリ沖の海底山脈「東太平洋海膨」では数十万年の平均で年間一五㌢と、地球上最も激しい地殻変動が起こっている。

深海底での距離が精密に測定できれば地殻の縮みや広がりを把握できる。特に日本周辺の海溝付近の動きがつかめれば地震予知に役立つ。海洋情報部が開発した超音波を使っての海底音響測距計は音響信号の伝搬時間の誤差を百万分の一秒以下に抑え、音速に影響する海水温の誤差を千分の一度以下に抑えたことによりミリ単位での計測が可能になった。

実験装置は五月二十四日から二十七日までに測量船「天洋」により野島崎の南二〇㌔の相模トラフ（海盆）に設置される。日本列島が乗っているアジア・ユーラシアプレートと、そこに潜り込んでいるフィリピン海プレートの境界を挟み約三・三㌔離れた水深二、五〇〇㍍の海底に二台の音響測距計を設置する。一時間おきに距離が自動的に測定される。

実験成果が上がれば、将来は南関東地震や東海地震、南海地震、東北地震などが懸念される日本周辺の海溝などに設置したいという。

テロ対策など審議

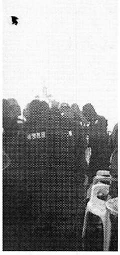
IMO海上安全委員会

ロンドン

IMO（国際海事機関）の第75回海上安全委員会（MSC75）が五月十五日から二十四日までロンドンで開かれ、海上保安庁から救難課の下野浩司専門官が出席した。

昨年九月の米国同時多発テロを契機に、IMOは今年二月、テロ対策中間作業部会で海事分野での国際的なテロ対策について審議。国際航海に従事する船舶へのAIS（自動船舶識別装置）の早期導入やテロ防止のための保安計画策定、入出港する港湾での施設の保安計画策定などについて取りまとめた。

今会合では、テロ対策中間作業部会での報告や各国からの提案をもとにSOLAS条約（1974年の海上における人命の安全のための国際条約）改正案や船舶の安全設備などについて審議した。



盾とこん棒でフーリガンを制圧

フーリガン制圧のため鎮圧隊員がゴムボートで乗り込む

情報の協力を呼びかけるポスター

海保HPへのアクセス 100万件突破

「不審船事件」以降、急増

海上保安庁ホームページへのアクセス件数が五月十七日、一〇〇万件を突破した。

平成十年三月三十一日のホームページ開設から約四年二カ月での一〇〇万件突破。五〇万件突破は昨年六月十五日で約三年三カ月かかったが、その後、約九カ月で一〇〇万件突破した。

アクセス件数が最も多かった月は昨年十二月の九六、一四五件。二十二日の奄美大島沖での不審船事件を受け、アクセスは急増。不審船事件前の一週間の一日平均アクセス件数は約一、三〇〇件だったが、事件当日は午後十時五十分からの一時間がピークで、一、八八六件だった。

海上保安庁をもっと国民に知ってもらおうと、昨年五月十七日にホームページを大幅にリニューアル。全国各地で発生した海の事件・事故、各地の話題を集めた「うみまる事件簿」「おもしろ一押しニュース」を掲載するなど、海上保安庁はホームページ開設以来、分かりやすいサイト作りを目指している。

アドレスはhttp://kaiho.mlit.go.jp

7648人が見学

被弾「あまみ」展示に高い関心

昨年十二月の不審船事件で被弾した巡視船「あまみ」の操舵室囲壁が五月七日から十七日まで、合同庁舎3号館一階の展示コーナーで展示され、国土交通省や海上保安庁などを訪れた七、六四八人が被弾状況を見学した。

展示は七日、テレビや新聞で報道されたことから、毎日約九〇〇人が見学に訪れ、九日には期間中最大の約一、一〇〇人が見学。操舵室の窓ガラスがクモの巣のようにひび割れているのを見て、見学者からは窓ガラスの材質や厚さ、被弾した弾の大きさ、展示後はどうなるのかなどの質問が出された。

奄美群島海上保安協力会を設立

名瀬保安部は「奄美群島海上保安協力会」を設立、五月一日、名瀬漁協会議室で百人余が出席し、設立総会を開いた。

奄美群島で密航・密輸、不審船、海上環境事犯や海難など海上保安全般についての情報早期入手が目的。会員は管内の市町村、郵便局、漁協、海事関係者、交通機関・観光事業者など団体・事業所が三七〇、個人が六一人。

協力会は、犯罪情報や地域ニーズなどの情報入手のほか、学生募集活動にも活用できると期待される。（名瀬）

W杯警備で独自ポスター　七管

韓国との〝往来窓口〟緊張

サッカー・ワールドカップのテロ、フーリガンに備え、海上保安庁の本庁と関係する九つの管区に五月十五日、対策本部が設置された。下関、博多と釜山間に定期航路があり、韓国との往来の窓口となる七管区は、大会前から旅客船事業者などにオリジナルポスターを配り、自主警戒強化や不審情報の協力を呼びかけるなど、特に力を入れている。

本部に対策本部を設置したほか、門司、福岡、大分各保安部に安全対策室を設置。二十九日から国内外の旅客船に海上保安官を警乗させるほか、九州運輸局など関係機関との連携強化を図り、海上の安全確保と治安の維持に万全を期す。（七管）

訓練

羅臼　5月15～16日、強制捜査訓練。巡視船「てしお」。河口付近でのサケ密漁者の現行犯逮捕から送致まで。捜査班が2班に分かれ、15日午前9時半に捜査着手、翌日正午まで総員泊まり込みの訓練。

研修

海保大　5月16日～7月3日、研修科潜水技術課程。自給気による潜水業務に従事する職員に対し、深度45㍍未満での自給気潜水、基礎的潜水作業技術を修得させる。全管区選抜の14人が受講。

水救会

長崎県　5月14日、NPO法人（4月1日認証）設立総会。4月1日現在で64救難所、34支所、所員4、694人。昨年の実績は救助出動58回、出動隻数350隻、救助船舶52隻、人員105人で、全国トップの実績。

就役式

尾道・しまひかり　4月25日、航行援助センターの発足式と併せ。庁舎内。合同庁舎入居官署の長、海保協会尾道支部役員も出席。

管区フラッシュ

根室　5月10日、海難防止講習会。根室漁協会議室。ロシア領200海里内サケ・マス流し網漁船船長が対象。根室海運支局労務官、北海道海難防止センター根室支部と合同。出漁前日の船長ら51人が受講。植田聖純救難係長らが講師。事故事例の説明、救命衣着用の必要性、救命救急法など約2時間。

那珂湊　5月14日、巡視艇「よど」体験航海。報道機関6社10人が参加。常陸那珂港沖まで約1時間。最新鋭の消防機能強化船などに質問。下船後、懇談会。

神戸　5月8日、けん銃・麻薬撲滅キャンペーン。三宮地下街。海保「うみまる」、神戸税関「カスタムくん」、兵庫県警「こうへいくん」、県薬物乱用対策推進本部「ダメ。ゼッタイ。くん」のキャラクターが勢ぞろい、パンフ、ティッシュ配り呼びかけ。

大阪湾センター　5月13日、施設見学。海上自衛隊潜水艦教育訓練隊潜水艦課程学生ら16人。明石海峡の状況と艦船運航上の留意事項を知るため。業務説明の後、施設・機器見学。地上40㍍のレーダー鉄塔最上階で快晴の明石海峡の景観に感嘆。

徳山　5月12日、大津島交流クリーン作戦（「徳山をよくする会」など主催）。職員8人が家族連れで参加。約250人が海岸や公園のゴミ収集。配布されたゴミ袋は1時間で一杯に。終了後、カラオケなど交歓会。

高松　5月11日、男木島灯台見学。「高松みなと物語講座」（高松まちづくり研究会主催）の20人。明治28年生まれの総御影石造り灯台から巨大船行き交う光景に歓声。

松山　5月15日、銃器・薬物撲滅キャンペーン。松山空港到着ロビー。税関、県警など関係機関と合同。約30人、「うみまる」、「カスタムくん」が参加。パンフ配布、情報提供呼びかけ。

仙崎　5月16日、体験学習。長門市立俵山中1年3人。「海」がテーマ。業務紹介ビデオ、業務説明、質問の後、巡視艇「さざんか」体験乗船。後日、発表会で体験内容を発表するとのこと。

関門航標　5月10日、火ノ山下潮流信号所見学。水産大学JICA海外研修員7人。研修の一環。

境　5月17日、巡視船「だいせん」見学。日野町立日野保育園の園児・父母ら58人。船内見学、環境紙芝居上演、制服着て「うみまる」と記念撮影。

細島　5月16日、安全指導講習会。日向市細島公民館。日向小型船舶安全会会員124人受講。馬場國光次長、徳重洋一主任が講師。海難防止、救命胴衣の着用、携帯電話の持参、小型船舶操縦士の現状、118番の周知。

油津　4月29日、鞍埼灯台一般公開。「大島歩こう会と植栽ボランティア」（南郷町観光協会主催）の一環。ボランティア170人参加。2㌔沖の大島に定期船で渡り、4㌔の灯台巡回道路にハイビスカスの苗木を植え、草刈り。日本最古のコンクリート造り灯台から水平線を見て「地球はほんとに丸い」と親子会話。

GW安全推進

境　5月2日、鳥取県境港管理組合が管理する公共マリーナに「ライフジャケット着用推進モデルマリーナ」設置。開催中の第18回全国高校選抜ヨット選手権大会（鳥取大会）参加中の選手90人に対し、巡視船「おき」乗組員が海難防止講習会。

石垣　5月8日、海浜事故防止講習会。琉球水救会はいむるぶし救難所。救難所と南西楽園のスタッフ30人が受講。巡視艇「なつづき」潜水士ら3人が講師。海水浴監視員の心構え、溺者の救助方法、シュノーケル使用・ダイビング・釣りの注意、津波への対処方法。

根室　5月12日、「落石岬灯台と自然に触れる会」。灯台と道自然環境保全地域の自然を知ってもらうことが狙い。615㍍の灯台見回り用木道を根室市博物館準備室学芸員の解説で散策しつつ自

している見張り窓からの景色に感嘆。飛行後、「えとぴりか」「ピリカ」見学。

小樽航標　5月12日、日和山灯台一般公開。灯台機器、写真パネル、灯台・船艇ペーパークラフト展示、制服

景観を1時間満喫。

釜石　5月12日、第2回釜石港「船の展示会」。巡視船艇3隻など7機関・9隻が参加。幼稚園児15人の郷土踊り「げんきっこ虎舞」披露。午後は巡視船「みやけ」体

命胴衣の試着、子供用制服を試着し「うみまる」と記念撮影、パンフ配布、学生募集。

宿毛航標　5月13日、海上保安教室。宿毛市立大島小5年A組36人が参加。ビデ

3隻で体験航海。

松山　5月12日、巡視船「いさづ」一般公開と搭載のゴムボート、監視取締艇体験乗船。子供連れの家族ら約200人が来訪、110人が体験乗船し、高速航行に歓声。

生を一日船長に任命、海難救助表彰、巡視船艇とヘリ高速機動訓練、ミニ制服試着、パソコンゲーム、環境紙芝居、水救会の心肺蘇生術、海洋少年団の手旗信号実演。2回で公募市民と友の会会員ら550人乗船。

九管　5月8～13日、「海上保安の日」パネル展。新潟市水族館「マリンピア日本海」特設コーナー。パネル35枚展示、パンフ・シール・灯台ペーパークラフト持ち帰りコーナー。1[illegible]、12日は臨